

▼最優秀賞受賞作品（俳句）

冬ふゆに入る

下平 しづ子

炬ろびろ開きの句座くざにいつもの貌かお揃そろひ

潺せんかん浚のひびきに暮くるる寒さむさかな

木こ枯からの村を出いでゆく樞ひつぎかな

日ひの逃にげしあたり俄にわかに枯かれ急いそぐ

山やま重かさね淋さみしさ重かさね冬ふゆに入る

露つゆに逝ゆき大だい往おう生の貌かおなせる

歳さい時じ記きに紅もみじ葉じを栞し逝ゆかれけり

探たん鳥ちようの人ひとらの仰あおぐ鷹たかの天てん

乗のり鞍くらも槍やりも雪ゆき来きて飛ひ驩だもまた

こころ書しょを離はなれし吾われにちちる鳴なく

▼最優秀賞受賞作品（川柳）

石つわぶき路きの花はな

丹 川 修

サブリより林檎一個を丸かじり

充分に「メツチャ」も「マジ」も根を下ろす

成功を支えてくれた敵味方

本物の拍手をくれた好敵手

行列に耐えた褒美がこれですか

「陰ながら」そんな応援なら要らぬ

応援旗補欠と知らぬ母が振る

実家への切符を握り嫁に行く

味よりも駐車ちやうの楽がくな店みせへ行く

封切らず先ずは透かしてみる祝儀